

ほろにかが

令和8年4月24日
全国卸売酒販組合中央会

「復興と現実と、私たち卸売業の役割」

北陸三県卸売酒販組合
理事長 谷口 英樹

(全国卸売酒販組合中央会 市場問題対策委員会委員)

令和8年元日の金沢は、穏やかな天候のもと新年を迎えました。石川県民にとって元日は特別な意味を持つ日です。2日以降は曇交じりの北陸らしい天候が続き、1月後半からは雪が降り続き、2月中旬頃まで厳しい寒さの冬となりました。3月後半には開花宣言があり、ようやく春本番を迎えました。

能登半島地震から丸2年が経ちました。被災地では家屋の解体も進み、空地が目立つようになり、随分と寂しい景色になりました。半島という地形条件のせいもあり、住宅建設業者も移動コストがかかり、さらに資材の高騰も重なり、住宅再建が困難な状況が続いています。その影響で、住民の金沢周辺への流出が止まりません。これを機にお店を閉められる酒販店も多くあります。能登の地酒メーカー各社も、一部を除き、他地域の酒蔵と共同で酒造りを続けています。当初は早期の蔵再建を考えておられたメーカー様も、想定していた建設費が住宅同様に何倍にも膨れ上がり、躊躇されているのが現状です。幹線道路はずいぶんと走りやすくなりましたが、復興どころか復旧も道半ばだと感じています。

私の会社には、被災地に在住する社員が多くいます。珠洲や輪島など甚大な被害にあった地域に暮らす社員もいます。しかしありがたいことに、地震を理由に退職した社員は一人もおりません。震災直後、自宅が被災しているにもかかわらず、いち早く出社し復旧作業に当たった社員もいました。また数日後、道路が寸断され、依然として厳しい状況が続く中で、本社および各支店の多くの社員やメーカー様が、現地に向かうことを事前に伝えることなく駆けつけてくれました。電話連絡すら迷惑になるのではという配慮からでした。被災していない地域から多くの物資を集め、もちろん社員だけでなく周辺の方々にお配りしました。

卸売業として、地域の仕入先様やお得意先様の事業を支えることこそが、地域復興に貢献する最大の力になると考えています。そのため、まず能登地区の物流センターの修繕を最優先に行い、奥能登の食のインフラ整備に注力してきました。また本年は、奥能登の小学校19校に電子黒板などの寄付を行っています。ビールメーカー各社様にも、様々な形で継続的な支援を行っていただいています。

金沢周辺には、震災後も多くの観光客が訪れています。一方で能登地区は、人口減に加え、解体業者も撤退し、町の寂しさが一層深まっています。漁港が多く点在する能登では、それぞれの町で受け継がれてきた祭りが、地元を離れた方々や県外からの応援の輪に支えられ、少しずつ再開しています。壊滅状態だった和倉温泉も、営業を再開する旅館が増えてきました。

全国の皆様には金沢までにとどまらず、ぜひ少し足を延ばして能登を訪れていただきたいと思います。震災前の姿にはまだ程遠いですが、そこには本当に素晴らしい景色、おいしい魚介類とお酒、深い歴史、そしてなによりも優しく温かい人々が待っています。ぜひ現地で感じていただき、その魅力をまわりの方々に伝えてください。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。